

## 資料 1

文化財名 : 摩尼寺 本堂、鐘楼、山門 3件  
 登録基準 : 造形の規範となっているもの（本堂）  
                   国土の歴史的景観に寄与しているもの（鐘楼・山門）  
 所在地 : 鳥取市覚寺  
 建築年代 : 本堂：万延1年（1860）  
                   鐘楼：明治25年（1892）  
                   山門：明治中期

摩尼寺本堂



南面し、桁行三間梁間四間、  
 入母屋造<sup>いりもやぞう</sup> 檼瓦葺<sup>さんぐわぶき</sup>で正面に千鳥<sup>ちどり</sup>  
 破風<sup>はふ</sup>を飾り、軒唐破風<sup>げんから</sup>付の一間  
 向拝<sup>むかひ</sup>を付す。正面一間を外陣と  
 し、堂内後寄りに仏壇<sup>ぶつだん</sup>を据えて  
 内陣<sup>ないじん</sup>を広くとる。向拝や内外陣  
 境、仏壇廻りは龍や鳥獣、雲や  
 波形の彫刻で高密度に飾り、  
 時代的特徴を良く示す。

鐘楼



山門の東に建つ方一間の吹  
 放ち形式の鐘楼で、入母屋造<sup>きりやうめんとり</sup>  
 檼瓦葺である。几帳面取角柱を石  
 礎盤上に内転びで立て、足固<sup>うしろのりめき</sup>  
 貫、内法貫、木鼻付頭貫及び台  
 輪で固め三斗実肘木で梁を受  
 け、中備は臺股とする。中央に  
 梁を渡し梵鐘を吊る。山門とと  
 もに表構えを構成する。

## 山門



本堂正面に建つ一間一戸薬  
医門。五平の本柱と控柱上に  
各々冠木<sup>かぶき</sup>を渡し、皿斗<sup>さらど</sup>付の三斗  
で木鼻付の梁を受け、波紋彫刻  
の笈形付大瓶束で棟木を受け  
る。屋根は切妻造棧瓦葺で棟端  
に鯢<sup>しやち</sup>を載せ、破風<sup>けふ</sup>に三花  
懸魚<sup>げぎよ</sup>を吊る。随所に立体的な彫  
刻を施し境内の表構えを飾る。

## 資料 2

文化財名 : 立川稲荷神社 本殿、拝殿及び幣殿、中門 3 件  
 登録基準 : 国土の歴史的景観に寄与しているもの（本殿、拝殿及び幣殿）  
                   造形の規範となっているもの（中門）  
 所在地 : 鳥取市立川町  
 建築年代 : 本殿：大正 10 年（1922）建築、昭和 8 年、平成 25 年改修  
                   拝殿及び幣殿：寛保 1 年（1741）、大正 7 年改修  
                   中門：大正 10 年（1922）建築、昭和 8 年、平成 25 年改修

立川稲荷神社本殿



正面一間背面二間、切妻造<sup>きりづまづくり</sup>  
 金属板葺で四周に縁高欄を廻  
 らし、正面の向拝に浜床を設  
 ける。柱上に舟肘木を落とし  
 込み、軒は二軒繁垂木<sup>しげだるき</sup>、妻飾  
 は豕叔首<sup>いのこきす</sup>とする。

正面と両側面前間に棧唐戸  
 を開き、他は板壁とする。建  
 ちが高く、装飾を抑えた簡明  
 な意匠をもつ本殿。

拝殿及び幣殿



間口三間奥行三間、入母屋造<sup>いりもやづくり</sup>  
 妻入り棧瓦葺として縁を廻ら  
 し、背面に幣殿を張出す。内部  
 は一室で幣殿を上段とし、格天  
 井を張る。妻飾を木連格子<sup>きづれこうし</sup>と  
 し、正面に構える唐破風造の向  
 拝に、臺股<sup>かえるまた</sup>を二個重ねて彫刻  
 木鼻を付すなど、正面構えの装  
 飾密度を高めた拝殿。



## 中門



本殿と幣殿の間の石段上に建つ。方一間、切妻造妻入りで、屋根に緩く起りをつける。礎盤<sup>そばん</sup>上に立つ円柱上に舟肘木を組んで落とし込み、桁を受ける。妻飾は豕叔首とし、正面柱間に上半を豎格子とした<sup>さんからと</sup>棧唐戸を吊る。近代に多数建てられた神社中門の特徴を示す。